



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

好きな言葉三選

教頭 榎田 俊光

「明日があるじゃないか」

小さい頃、長期休みが絡むと宿題や手伝い等を計画的に、「今日できることは今日する」と躡けられた。できることはできるときにやっておく。先延ばしにしないで、それがいつまでも気にかかっている。ストレスにならないということはある。しなければならぬことは早くやっておく。心がかかっていたが、うまくいかないことも多々あった。今日しなければ、明日できなかったら、やらなかつたという負の連鎖に心を病むことがある。長らく幾多の困難が待ち受けている人生の中には、今日ではなくても明日でも何の影響もないことを見つけた。そこで、「明日できることは今日しない」と気付いた。すると少し余裕が生まれ、その余裕があるとき自然に明日でもいいことを今日するように。おらかな気持ちのゆとりが、プラスに作用するのである。

「泣こかい、跳ぼかい、泣こよっかひっ跳べ」

平成生まれの若い君達は鹿児島弁を聞いたり、話したり、あるいは理解したりする機会がぐんと減っていると思うが、この一節は聞いたことがあるだろう。度胸試しの時の応援の言葉でもあり、人前で泣いては男として認められないよと言う、戒めの意味も含まれている。質実剛健が当たり前であった頃の薩摩隼人の心意気を感じ、泣くぐらいなら跳んでしまえ、迷って決断しないよりは勇気を出して実行しなさいという意味の言葉である。「進むべきか、退くべきか。困った時は前進（断行）あるのみ」という気概が込められている。上手くやれなくても良い、取りあえずやってみようじゃないか。

1月の行事予定

Calendar table for January with columns for date, event, and status (e.g., school day, holiday).



12/22に行われた「センター試験激励会」の様子。3年生の受験必勝を祈願して、在校生がエールを送りました。

「勇往邁進」

恐れることなく、自分の目的・目標に向かって、ひたすら前進すること。もうすぐ創立百二十五周年を迎える鶴丸にふさわしい言葉と考える。

平成三十二年、大学入試センター試験に代わって新共通テスト「大学入学学力評価テスト」（仮称）がスタートする。昭和五十四年に共通一次試験が導入され、平成二年から大学入試センター試験となり今に繋がっている。奇しくも、私がこの鶴丸で「かへらざる三年」を過ごしたのは、昭和五十四年四月から昭和五十三年三月。昭和五十四年度から共通一次試験導入という節目で、これまでとシステムが全然変わる。浪人すると予想できないくらいに負担増になるという空気が漂う中、いよいよ最後の一期校、二期校の二回の大学入学試験にチャレンジし、進学を決めていった記憶がある。リアルタイムで大学入試の変遷を経験できたのである。

国公立大学を二回受験できたシステムから、共通一次試験によって国公立大学は一校のみしか受験できないという一発勝負方式が、当時の受験地獄を緩和させる新手法として実施されたのである。その後、共通一次試験の弊害を改めるため、平成二年から「大学入試センター試験」制度に継承されて、

価値相対化の時代に

生徒指導課主任 濱田 忠臣

国・公・私立大学の全ての大学が自由に利用できるようになった。本校は、これまでの大学入学試験改革においても、何一つびくともせず威風堂々と歴史を重ね、その時代その時代の変化に適応できる人材を、常に社会に送り出してきた。それは、先輩方から脈々と引き継がれてきた自己管理と自己責任の姿勢、加えて先人の教師団からの高い理想を追い続ける強い精神力の育成によるものだと思われる。何事にも動ぜず、勇往邁進する鶴丸の教育力こそ大切に継承して欲しい。五年後、十年後、そして百五十周年を迎えるときも、鶴丸が変わらずに鶴丸であるために。

英国のEU離脱に米国の大統領選、日本では東京五輪に絡む新市場問題など、今年には特に意表を突く話題に事欠かないようである。その中で（国語の教員として）話題にせざるを得ないのが、ノーベル文学賞である。この賞を往年のミュージシャンであるボブ・デラン氏が受賞したことは、その受賞を彼が受けるのかどうかも含めて大いに物議を醸した。反体制・反権力の旗手として、日本でも多大な影響を与えた彼が、今や大いなる権威となっているノーベル賞に對しても反旗を翻すのかどうか。結果はご承知の通り、彼にしては苦渋の選択だったのかもしれない。

反体制と言え、現代文の授業で話題になったことを一年生の諸君は思い出すだろうか。小説『鏡』の語り手「僕」は、「体制打破の波に呑みこまれた一人」という設定で独白を続けていく。作者は団塊の世代の旗手たる村上春樹氏。毎年のようにハルキストたちが彼のノーベル文学賞受賞を待つ（のを楽しむ）姿が、テレビ等で流される。今や秋の風物詩となっている感がある。まだ若い村上氏にはなかなか順番が回ってこないのだから、日本を含め世界中に候補者がひしめく自然科学分野に比べて、意外性があるのはこの文学賞、そして何よりも平和賞であろう。

ノーベル平和賞と言え、この平和賞の存在自体に違和感がつきまとう。殺戮兵器の性能を大いに向上させたダイナマイトで莫大な富を築き、「死の商人」と評されたノーベル。彼をノーベル賞創設に掻き立てたのは、いかにも人間的な欲望であったようだが、今やこの賞は彼の思惑をはるかに超えた世界的な権威の象徴でもあり、世界遺産などともな。日本で唯一ノーベル平和賞に輝いたのが、第六十一〜六十三代内閣総理大臣として連続在位七年八ヶ月と最長を誇った佐藤栄作氏である。

学校賞受賞

租税教育と「小さな親切」運動

後期に入り、本校が二つの賞を受賞しました。一つは、長年の租税教育が称えられ、「租税教育推進校」の賞を国税局から授与されました。もう一つは、二十年來の「小さな親切運動作文コンクール」への参加を高く評価され、「小さな親切」運動鹿児島県本部から車椅子を贈呈されました。いずれも長年にわたる教育活動の成果を表彰されたものであり、喜ばしい限りです。みなさん、ありがとうございました。

「自分の可能性に期待して、がんばりなはれ！」

吉井理人氏、来校文化講演会



十二月五日、卒業三十年を迎える先輩方から在校生へ贈られる文化講演会が行われました。今年度の講師は、日本ハムファイターズピッチングコーチの吉井理人氏。メジャーリーグでも活躍した吉井氏の話には、会場は熱気に包まれました。熱気よく話された。気がさく人柄がうかがわれる軽妙な口調に、終始笑いとうなずきが絶えない。九十分。最後は、「自分の可能性に期待して、がんばりなはれ！」と生徒たちにエールを送ってくださいました。